

製品名: Rb (アセチル-K873/K874) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06252**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300

分子量

抗原情報

遺伝子名	RB1
別名	Retinoblastoma-associated protein (p105-Rb) (pRb) (Rb) (pp110)
遺伝子 ID	5925.0
SwissProt ID	P06400
免疫原	ヒト Rb 由来の合成アセチルペプチド。AA 範囲: K873/872

背景

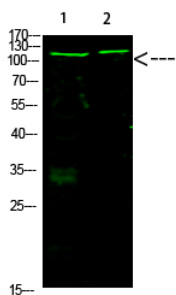
この遺伝子によってコードされるタンパク質は細胞周期の負の調節因子であり、初めて発見された腫瘍抑制遺伝子である。また、コードされるタンパク質は恒常的なヘテロクロマチンを安定化させ、クロマチン構造全体を維持する。活性型で低リン酸化状態のこ

のタンパク質は、転写因子 E2F1 に結合します。この遺伝子の欠陥は、小児がんである網膜芽細胞腫 (RB)、膀胱がん、および骨肉腫の原因となる。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: RB1 の欠陥は膀胱がんの原因となる [MIM:109800]。、疾患: RB1 の欠陥は骨肉腫の原因となる [MIM:259500]。、疾患: RB1 の欠陥は小児がんである網膜芽細胞腫 (RB) の原因となる [MIM:180200]。網膜色素変性症 (RB) は、網膜の核層から発生する先天性悪性腫瘍です。出生児 20,000 人中約 1 人の割合で発生し、小児悪性腫瘍の約 2% を占めます。症例の約 30% は両眼性です。RB のほとんどは散発的に発症しますが、約 20% は不完全浸透の常染色体優性遺伝形質として遺伝します。診断は通常、2 歳未満で斜視または瞳孔からの灰色から黄色の反射 (「猫の目」) を検査することで下されます。、機能: 細胞分裂開始の重要な調節因子であり、腫瘍抑制因子として機能します。E2F1 標的遺伝子の転写抑制因子として機能します。低リン酸化の活性型 RB1 は E2F1 と相互作用し、その転写活性を抑制して細胞周期停止を引き起こします。ヒストンのメチル化を安定化させることで、全体的なクロマチン構造、特に恒常的ヘテロクロマチン構造を維持することにより、ヘテロクロマチン形成に直接関与します。ヒストンメチルトランスフェラーゼ SUV39H1、SUV420H1、および SUV420H2 をリクルートして標的とし、エピジェネティックな転写抑制を引き起こします。ヒストン H4 の「Lys-20」トリメチル化を制御します。TAF1 の固有のキナーゼ活性を阻害します。ウイルス感染の場合、SV40 ラージ T 抗原、HPV E7 タンパク質、またはアデノウイルス E1A タンパク質との相互作用により、RB1-E2F1 複合体の分解が誘導され、RB1 の活性が阻害されます。、online information:RB1 mutation db,online information:Retinoblastoma protein entry,PTM:G1 期にリン酸化され、E2F1 が放出され、細胞増殖を活性化できるようになります。M 期後期に脱リン酸化されます。SV40 ラージ T 抗原、HPV E7、およびアデノウイルス E1A は、低リン酸化の活性型 pRb に結合します。、類似性: 網膜芽細胞腫タンパク質 (RB) ファミリーに属します。、サブユニット: ATAD5 と相互作用します (類似性による)。低リン酸化型は E2F1 転写因子と相互作用し、これを隔離します。非リン酸化型は ARID3B、KDM5A、SUV39H1、MJD2A/JHDM3A、および THOC1 と相互作用します。TAF1 の N 末端ドメインと相互作用します。AATF、DNMT1、LIN9、LMNA、SUV420H1、SUV420H2、PELP1、および TMPO-alpha と相互作用します。NDC80 と相互作用する可能性があります。EID1 および UBR4 と相互作用します。ARID4A および KDM5B と相互作用します。E4F1 と相互作用します。アデノウイルス E1A タンパク質、HPV E7 タンパク質、SV40 ラージ T 抗原と相互作用します。、組織特異性:網膜に発現します。、

研究分野

Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;がんの経路;膀胱がん;神経膠腫;前立腺がん;黒色腫;膀胱がん;慢性骨髄性白血病;小細胞肺がん;非小細胞肺がん;

画像データ



Rb (アセチル-K873/K874) ウサギポリクローナル抗体 (1:1000 希釈、4°C、一晚) を用いた 1, マウス心臓細胞および 3, マウス脳細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体: ヤギ抗ウサギ IgG IRDye 800 (1:5000 希釈、25°C、1 時間)